



せんだんの本



令和8年2月20日 校長 各務 至

この子を守りて（戦争体験講話：6年生）

17日、6年生が岐阜市在住の玉田澄子さんから戦争体験について伺う機会がありました。いわゆる満蒙開拓団として、玉田さんが1944年5月（小学2年生時）に、現在の郡上市から一家で旧満州（中国東北部）の琿春に入植するも、日本の敗戦に伴い、苦難の末、母に守られながら引き揚げを果たす話になります。



6年生社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」では、教科書に満州事変から中国との戦争の記載があり、その中で満州移住に関するポスターや写真等が掲載されていますので、子供たちは、教科書と照らし合わせながら玉田さんの話を聴き入りました。

○子供の感想

～戦争で被害を受けるのは、兵士だけでなく弱い立場の人が多かったです。

～満州での生活や満州から日本に帰ってくるのが、どんなに大変だったか詳しく知ることができ、勉強になりました。

～前日に赤ちゃんを産んだばかりの身体で、子供を2人抱えながら川を渡って逃げようとしていた玉田さんのお母さんがすごいと思いました。

～こんなことが二度とないように思いました。ウクライナとロシアがしている戦争など全部がなくなればいいと思いました。

～玉田さんのように、実際に戦争を体験した人の話は教科書にも載っていますが、ごくわずかです。家族のことなどで大変だったのがよく分かりました。玉田さんの書かれた本を読みたいと感じました。

～つらい決断をしなければならないことがたくさんあることを知り、それを乗り越えているすごさを感じました。今、生きてることが奇跡のようで、これからは命を大切に生きていきたいと思いました。

玉田さんは、ご自身の記憶と母が遺した手記をもとに、「大地の風」「大地の花」を執筆されています。その中では、「～『申し訳なくて中国へはいけない』とか『戦争中のことは誰にも話さず墓場まで持っていく』という人がいますが、二十一世紀の日本を受け継いでいく人たちに対して、二十世紀を生きた日本人がそんな無責任なことでもいいのかと思います。」と記しています。今の子供たちには、明るい未来を語ることでできる世の中を渡してやるのが大人の責務だと、私にはとても重みのある言葉として伝わってきます。また、玉田さんを紹介してくださった見守り隊の奥田さんも「絶対に戦争はいけない。」と力を込めておっしゃられていたことを心に留めつつ、子供と向き合っていきたいと思います。6年生の教科書のあるご家庭におかれましては、お子さんと一緒に該当のページを開いてみてはいかがでしょうか。

学校を支える力（学校運営協議会）

19日（木）、深尾会長様をはじめ委員の皆様にお集まりいただき、授業をご参観いただきながら、今年度の学校の状況を踏まえ、来年度の学校の取組についてご示唆をいただきました。

右図の通りに、学校運営協議会の組織と活動内容を整理したところ、多くの団体様によって子供の教育活動が実現していることが分かります。これらは、学校だけでは実現できないことばかりで、感謝の気持ちでいっぱいになります。来月6日には、代表の方々を学校にお招きして、感謝の会を催す予定です。

○委員の方々より※一部抜粋

- ・1年生のてきぱきとした動きに成長を感じる。4年生の発表練習は「伝えよう」とする意思が感じられた。
- ・限られた勤務時間や職員の中でも、学校全体的に健全な育ちを感じる。
- ・いじめへの取組など子供を育てることについて、学校とともに家庭や地域が関心をもつことが大切だ。
- ・タブレットの活用が進んでいるが、鉛筆を持って「文字を書く」、「声に出して読む」ことも大切にしてほしい。

○学校評価より ※12月末調査

「総合の時間等で地域のいいところを見つけている」という質問に児童は次のとおりに答えています。

よくあてはまる186	あてはまる168	あまりあてはまらない48	あてはまらない12
------------	----------	--------------	-----------

85%くらいの子が「よくあてはまる・あてはまる」としていました。15%くらいの子が「あまりあてはまらない・あてはまらない」としていました。学校の指導として、子供たち自身が学んでいることを実感する場面を設けるなど授業の工夫を考えたり、ご家庭での話題に上がるよう声を掛けたりしていきます。

学校運営協議会（組織と活動内容）

